

# 我は世界の破壊者なり — オッペンハイマーと原子爆弾 —

(株)日本設備工業新聞社  
代表取締役社長 高倉克也

激しい雷雨がようやく静まって午前5時30分に決行することにした。人類初の核実験は砂漠を揺るがす巨大な衝撃波と共に成功する。爆発した瞬間、閃光によって周囲の山脈は昼間より明るくなり、キノコ雲は高度12kmに達した。

ついに原子爆弾を完成させた全米屈指の科学者や軍人たちは歓声を上げ、研究開発のリーダーであるロバート・オッペンハイマー(1904—1967)と握手を交わした。原爆は広島と長崎に投下され、第2次世界大戦の勝利に貢献した物理学者としてオッペンハイマーは原爆の父と讃えられる。

ヨーロッパ・アジア諸国を侵略するファシストと対抗するために核兵器は不可欠なものだった。とりわけユダヤ人を迫害し、原爆の製造を企てるナチス・ドイツを阻止することが己の使命と考えていた。そう確信しながらもオッペンハイマーはかつてない不安と脅威と後悔に苛まれる。

## マンハッタン計画の始動

オッペンハイマーはドイツのユダヤ系移民の裕福な家庭の子としてニューヨークで生まれた。数学の得意な早熟な子供で地質学や古典文学にも興味を持ち複数の言語を習得する。

ハーバード大学で化学を専攻し、首席で卒業後、イギリスのケンブリッジ大学で実験物理学などを学ぶ。ここで量子力学の先駆者ニールス・ボーアと出会い、理論物理学に目覚めていく。ドイツの

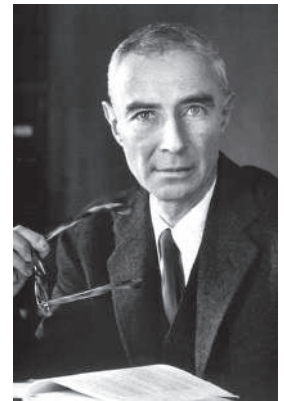
ゲッティンゲン大学に移籍して博士号を取得し、ノーベル物理学賞を受賞するマックス・ボルンとの共同研究として電子と原子核の運動に関する「ボルン・オッペンハイマー近似」を発表する。

帰国後、カリフォルニア大学バークレー校などで教鞭を執る傍ら、

新たに宇宙物理学の一環としてブラックホールをめぐる研究を進めた。1938年にナチス・ドイツ政権下で原子核分裂が発見されるとオッペンハイマーは原子核分裂を応用した原爆開発がヒトラーのもとで可能になると危惧した。

第2次世界大戦が中盤に入った1942年、米軍のレズリー・グローヴス准将の指揮下で原爆開発をめざす極秘プロジェクト・マンハッタン計画が始動する。翌年、ニューメキシコ州に設立されたロスアラモス国立研究所の所長にオッペンハイマーが抜擢された。全米各地からノーベル賞受賞者を含めた優秀な科学者やヨーロッパから亡命したユダヤ人科学者と家族たちがロスアラモスに移り住み、本格的な原爆開発に着手する。

実用化が着々と進んでいくなかで連合国軍は優位に立ち1945年5月8日、ナチス・ドイツが



ロバート・オッペンハイマー

全面的に降伏した。それでもトルーマン大統領は標的を日本に切り換え、原爆開発の続行を命じる。ナチス・ドイツを撃退し、アジア・ヨーロッパへの影響力を強めたスターリン支配下のソヴィエト連邦を牽制する意図が込められていた。

## 大統領に罵倒された英雄

史上初の核実験はオッペンハイマーによってトリニティ実験と名づけられた。イングランド国教会の司祭を務めた詩人ジョン・ダンの讚美詩に触発されてキリスト教の三位一体＝トリニティを採用したといわれている。あるいはサンスクリット語を学んでいたことからヒンズー教の三神一体という説もある。世紀の実験は7月16日、ニューメキシコ州の砂漠地帯で行われることになった。

グラウンド・ゼロ＝爆心地には高さ30mの鋼鉄製の実験塔が建てられた。プルトニウムのコアを内蔵した核爆弾を実験棟の最上部に引き揚げる。

頑丈な実験棟はトリニティ実験による衝撃波で跡形もなく消え去った。代わりに直径330m、深さ3mのクレーターが残されていた。実験後、戦車でクレーターを調査した乗員全員が被爆したと報告されている。だが爆発の原因は広島に原爆が投下されるまで公表されなかった。

トリニティ実験の成功はただちにトルーマン大統領に伝えられた。実験の直後に連合国軍首脳によるポツダム会談が開かれる。会議の休憩中にトルーマンはスターリンに近づき「われわれには異常な破壊力の新兵器がある」と告げた。

完成した原爆は8月6日に広島市、8月9日に長崎市に投下された。少なくとも12万人以上が即死し、その後も多くの人々が犠牲になった。

日本の無条件降伏で第2次世界大戦は終結する。終戦後、ホワイトハウスに招かれてトルーマンと初対面したオッペンハイマーは「大統領、私は自分の手が血塗られているように感じます」と述べ、トルーマンを激怒させた。トルーマンは戦争の英雄を泣き虫と罵倒し、二度と会わなかった。

広島と長崎の想像を絶する悲惨な光景に衝撃を受けたオッペンハイマーは核爆弾が人類に終末をもたらすと考えるようになっていた。1946年に発足した原子力委員会の顧問となり、ソヴィエト

連邦との核兵器増強競争に警鐘を鳴らす。

とりわけ原爆より遥かに強力な水素爆弾を開発し、水爆の父と呼ばれたユダヤ系理論物理学者エドワード・テラーと真っ向から対立した。翌年、オッペンハイマーがプリンストン高等研究所の所長に就任するとテラー派は彼の失脚を画策する。

## 危機の時代を生き抜く勇氣

米ソ冷戦の時代が始まると共和会上院議員で反共主義者のジョセフ・マッカーシーらが共産黨員や支持者を排除する赤狩りを強行した。かつてアメリカ共産党などの集会に参加したことのあるオッペンハイマーもきびしく追及された。

原子力委員会は1954年、機密安全保持違反容疑によってオッペンハイマーの事実上の公職追放処分を決定する。水爆開発に反対して危険人物と見做され、生涯にわたってFBIの監視下に置かれた。1960年に来日し、ノーベル物理学賞を受賞した朝永振一郎らと座談会や講演会を行う。原爆の開発については「科学者は罪を知った」と語っていたものの、広島と長崎を訪れることはなかった。ただ被爆者たちが1964年に渡米した際、非公式に会ったオッペンハイマーは涙を流しながら何度も謝罪の言葉を繰り返したという。

晩年は咽頭がんを患い、62歳で他界する。生前フランクリン・ルーズベルト元大統領の妻であるエレノア・ルーズベルトと行ったテレビ討論では「水爆の開発は人類の倫理の根本に影響を与える。恐怖だけに駆られればこの危機の時代を生き抜くことはできない。恐怖を乗り越える答は歩み寄る勇氣ではないでしょうか」と核兵器による抑止論に異議を唱え、核兵器のない世界を希求した。

みずから原爆開発を主導したトリニティ実験では爆心地から南に9kmほど離れた司令センター待避壕で爆発を見届けた。オッペンハイマーは後年、古代インドの詩篇『バガヴァッド・ギーター』の一節が爆発の瞬間に甦ったと述懐している。ヒンズー教の神クリシュナは己に課せられた使命を果たすために恐ろしい姿に変身して宣言する。「世界はそれまでと変わってしまった。我は死神なり、世界の破壊者なり」と。オッペンハイマーはクリシュナに自分の運命を重ねあわせた。